

小倉遊亀を たのしむ

小倉遊亀
〈花屏〉
1950(昭和25)年
滋賀県立近代美術館所蔵
【前期】



Point
1
女性画家
ならではの
まなざし

・息子家族をモデルに、妻から母親へ、
女性の変化を描き出す
・子供たちのしぐさや表情が
ほほえましい

Point
2
やきもの
好き

・遊亀にとって絵を描くとき、
いつも側にいて癒やしてくれる
友だちのような存在
・やきもの隣に果物や花を置くと
たちまち語り合いが聞こえる遊亀は、
静物画を得意とする

描かれている愛用の呉須赤絵鉢も展示します

関連イベント

記念講演会

「小倉遊亀と滋賀県立近代美術館」

講師 | 國賀由美子 本展監修者、大谷大学教授、
元滋賀県立近代美術館専門学芸員
日時 | 8月18日(日) 14:00~(13:30開場、約90分)
会場 | 美術館ホール(190席)

聴講
無料

当日
先着順

オープニングギャラリートーク

講師 | 滋賀県立近代美術館学芸員
日時 | 6月28日(金) 10:00~(約60分)
会場 | 企画展示室

要企画展
観覧料

ギャラリートーク(学芸員による作品解説)

日時 | 6月29日(土)・7月13日(土)・21日(日)・
8月17日(土) 14:00~(約60分)
会場 | 企画展示室

要企画展
観覧料

美術館キネマ

「ココ・アヴァン・シャネル」
2009年、
フランス
日時 | 6月30日(日)
①10:30~ ②14:00~
(各回30分前開場、約110分)
会場 | 美術館ホール(190席)

鑑賞
無料

当日
先着順

七夕講談会

展示作品にちなむ武天天皇・額田王ほか
日時 | 7月7日(日)
14:00~(13:30開場、約60分)

1,000円
未就学児は
観覧無料

出演 | 神田 蘭
会場 | 美術館ホール
(190席/全席指定)

購入方法 | 5月1日(水・祝) 10:00より
美術館にて前売券発売開始
※詳細は当館ホームページをご覧ください。

美術講座

講師 | 田野葉月(当館主任学芸員)
日時 | 7月27日(土) 14:00~(13:30開場、約90分)
会場 | 美術館講義室(40席)

聴講
無料

当日
先着順

夏休みアート体験2019

毎年好評のワークショップ。
今年は「建築」をテーマとした創作活動を行います。
日時 | 8月10日(土)・11日(日・祝)・12日(月・振休)
(各日2回 計6回実施)
会場 | 美術館アートスタジオ
対象 | どなたでも(小学校3年生以下は保護者同伴)
※詳細は、7月以降当館HPでご確認ください。
企画協力 | 島根大学教育学部美術教育専攻

参加
無料

要事前
申込

サンセットギャラリートーク

(夕方行う作品解説)
日時 | 8月13日(火) 16:30~(約60分)
会場 | 企画展示室

要企画展
観覧料

しまび×グラントワ カラフルでにぎやかな夏
ふたつ見て、もらおう。

企画展「小倉遊亀と院展の画家たち」と「いのくまさん」の
両方をご覧になった方にうれしいプレゼントを差し上げます。
企画展入口にてスタンプカードの配布、または押印します。

期間 | 7月13日(土)~9月1日(日)

当館でのカード配布は6月28日から、
プレゼントお渡しは8月26日まで

島根県立石見美術館(グラントワ)企画展
猪熊弦一郎展「いのくまさん」(7月13日(土)~9月1日(日))

要企画展
観覧料

関連展示

1 「特集 日本美術院」
会期 | 7月3日(水)~8月5日(月)

会場 | 展示室1
ギャラリートーク | 7月14日(日) 14:00~

要コレクション展
観覧料

2 「人物画・静物画」

会期 | 8月7日(水)~9月16日(月・祝)
会場 | 展示室1

要コレクション展
観覧料

ギャラリートーク | 8月24日(土) 14:00~

観覧料

一般	[前売券]	企画・コレクション展セット	900円
	[当日券]	企画展	1,000(800)円
		企画・コレクション展セット	1,150(920)円
大学生	[当日券]	企画展	600(450)円
		企画・コレクション展セット	700(530)円
小中高生	[当日券]	企画・コレクション展セット	300(250)円

○()内は20名以上の団体料金 ○小・中・高生の学校教育活動での観覧は無料 ○身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付添の方は無料 ○前売券は、ローソン各店(Lコード62145)、チケットぴあ窓口(Pコード769-621)、セブンチケット及び、各プレイガイドにてお求めいただけます(販売期間5/28~8/26)

次回展覧会予告 | 開館20周年記念展 黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景
9月4日(水)~11月4日(月・振休)

○交通案内
●JR松江駅から徒歩約15分
●JR松江駅から松江市営バス(南循環線内回り)
6分→「県立美術館前」下車
●観光ループバス(レイクライン)→「県立美術館前」下車
●山陰道→松江西ランプから車で約5分
○駐車場
●国道9号袖師交差点南進
(駐車場から地下道をご利用下さい) ※3時間まで無料

島根県立美術館

〒690-0049 松江市袖師町1-5
TEL.0852-55-4700
FAX.0852-55-4714
https://www.shimane-art-museum.jp



毎週木曜日の午前中は
かぞくの時間
子どもたちの鑑賞機会を
beyond
2020

滋賀県立近代美術館所蔵作品による

画家たち展

Yuki
Ogura
and
the Painters of
the Japan Art Institute

と

院展の

遊亀

小倉



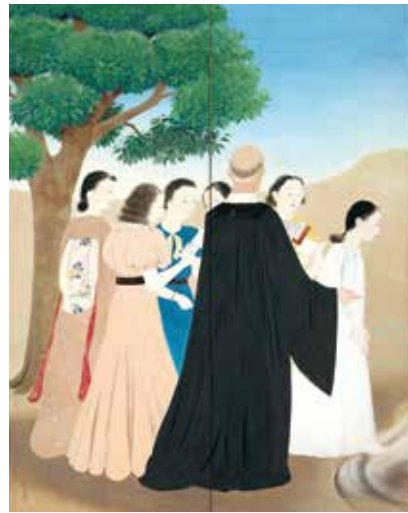
2019年6月28日 | 金 | — 8月26日 | 月 |

※会期中展示替があります。前期:7月29日まで 後期:7月31日から

開館時間=10:00~日没後30分(展示室への入場は日没時刻まで) 休館日=火曜日(ただし8月13日は開館)
主催=島根県立美術館、日本海テレビ、NHK松江放送局、NHKプラネット中国、SPSしまね 監修=國賀由美子(大谷大学文学部教授)
特別協力=滋賀県立近代美術館 協力=公益財団法人日本美術院 制作協力=NHKプロモーション 後援=朝日新聞松江総局、
毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、中国新聞社、山陰中央新報社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、
TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン

島根県立美術館

小倉遊亀〈姉妹〉1970(昭和45)年 [前期]
滋賀県立近代美術館所蔵



小倉遊亀《受洗を謳う》1936(昭和11)年【前期】



小倉遊亀《娘》1951(昭和26)年【前期】



小倉遊亀《家族達》1958(昭和33)年【前期】



小倉遊亀《葡萄》1959(昭和34)年【後期】



小倉遊亀《紅梅白壺》1971(昭和46)年【後期】



小倉遊亀《聴く》1974(昭和49)年【後期】

女性初の日本美術院同人で、文化勲章を受章した小倉遊亀(1895-2000)。家族や子供、または裸婦を含めた人物画、そして静物画をよく描きました。対象の本質を捉えようとする理知的造形が魅力で、個々の持つぬくもりを感じさせる独自の視点を確立しています。本展では遊亀の画業を紹介するとともに、師の安田靉彦をはじめとして、横山大観、菱田春草、今村紫紅、速水御舟、小茂田青樹、小林古径、前田青邨ら院展の仲間の、時代を切り開いた優作が一堂に会します。滋賀県立近代美術館が所蔵する粋であるこれらは、日本画を語る上で欠かせない作品群であることは間違いなく、まとまって見られる貴重な機会となります。 ※所蔵表記のない作品はすべて滋賀県立近代美術館所蔵

滋賀県立近代美術館
所蔵作品による

小倉遊亀と 院展の画家たち展

院展の発展と
小倉遊亀

小倉遊亀の師匠は院展の安田靉彦で、同世代には速水御舟や小茂田青樹、小林古径、中村岳陵らがいた。とくに御舟の細密描写は大きな影響を与えた。遊亀の初期作も写実的な表現である。次第に作風を変化させ、フォルムと配置で動きを表す、にぎやかな遊亀ならではの作品世界が生み出されてゆく。



北野恒富《鏡の前》1915(大正4)年【前期】



速水御舟《洛北修学院村》1918(大正7)年【6/28(金)~7/13(土)】



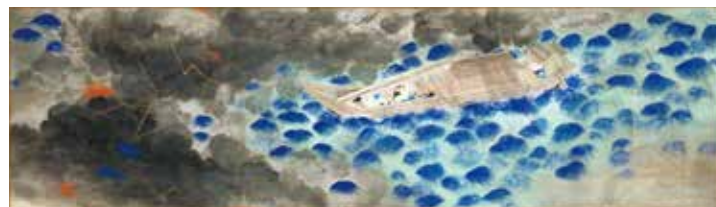
安田靉彦《飛鳥の春の額田王》1964(昭和39)年【前期】



安田靉彦《卑弥呼》1968(昭和43)年【前期】



速水御舟《菊花園》1921(大正10)年 個人蔵(滋賀県立近代美術館寄託)【後期】



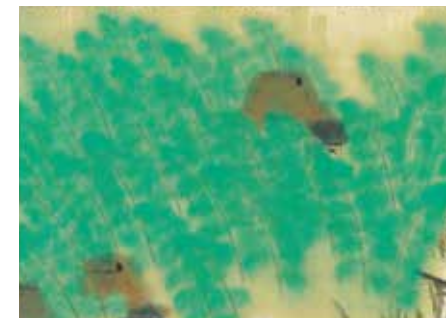
小林古径《竹取物語 難破》1917(大正6)年【前期】

富田溪仙《宇治川之巻 木幡》1915(大正4)年【半期で巻替】



花開く
院展芸術

昭和初期から戦後にかけて、院展の豊かな試みを紹介する。関西から院展に参加した富田溪仙の個性、さらに安田靉彦らの歴史画に見られる美しい描線は、古典主義として時代の様式ともなった。



横山大観《洛中洛外雨十題 八幡緑雨》1919(大正8)年【後期】



菱田春草《落葉》1909(明治42)年【後期】

今村紫紅《箱根山》1912(明治45)年【後期】



院展再興
への道

日本美術院創立期の横山大観や菱田春草、下村観山らの活躍、さらに岡倉天心没後に再興された院展を担う、今村紫紅と安田靉彦の明治期から大正期の作品を紹介。明治期の歴史画流行のなかで、独自のスタイルを目指して実力を育ててゆく様子が見られる。